

宮崎県総合計画審議会第3回専門部会

(人づくり部会)

会議録

日時 令和4年8月8日(月)

15:30~16:35

場所 宮崎県防災庁舎 防71号室

○事務局

ただいまから、宮崎県総合計画審議会第3回人づくり部会を開催いたします。はじめに部会長を御紹介いたします。藤本委員でございます。

○藤本部会長

藤本でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局

藤本委員には、審議会会長の指名により、この人づくり部会の部会長を務めていただきます。また、副部会長につきましては、引き続き中村委員に務めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○中村副部会長

はい。

○事務局

その他の委員におかれましては、時間の関係上、お手元の部会名簿での御紹介とさせていただきますので、御了承ください。

次に、本日お配りしている資料の確認ですが、部会委員の名簿、そして配席図、その他資料として、長期ビジョンの抜粋。これは、第2章目指す将来像という帯が書いてある資料になります。それと、人づくり部会に関する参考資料としてグラフ等が載っている1枚紙をお配りしております。本日は、こちらをもとに御議論いただきたいと思います。と考えております。

さらに、長期ビジョンの本冊につきましても参考資料としてお配りしておりますので、よろしくお願いいたします。資料のない方いらっしゃいましたら、御連絡ください。大丈夫でしょうか。それでは議事に入らせていただきます。

これからの議事につきましては、部会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○藤本部会長

失礼いたします。改めまして、部会長ということで、少しずつ慣れていきたいと思しますので、本日はよろしくお願いいたします。と思います。

では、まず、本日の会議録署名委員を指名させていただきます。

本日御出席の委員そして専門委員の中から、松本委員と、中村専門委員をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。では、お二方よろしくお願いいたします。それでは早速ですが議事に入りたいと思います。

議題につきましては、「アクションプランの策定に向けて」ということになります。で

は、その関連事項として、内容も含めて、事務局の方からまず説明をお願いします。

○事務局

総合政策課の百枝と申します。よろしくお願いします。

それでは「第2章目指す将来像」と帯に書いてある、ホッチキス留めの9ページの資料をお出し下さい。10分程度、御時間いただいて説明させていただきたいと考えております。

資料の1ページを御覧ください。本県が目指す20年後の将来像としての基本理念を「安心と希望の未来への展望」とし、将来像を3つ掲げております。

まず、将来像1を「一人ひとりが生き生きと活躍できる社会」としております。

本県の豊かな自然や歴史文化などの魅力に加え、子育てしやすい環境を整えることで、宮崎に「残る」「戻る」「移る」方が増えている社会になればと考えております。

また、宮崎に誇りと愛着を持ち、先ほども御意見いただきましたが、確かな学力や、これからのグローバル社会を生き抜く力を持った若者が増えている社会、さらには新たなスキルの習得や、学び直しができる仕組みを整えるなど、性別や年齢等を問わず、個々の価値観が尊重され、一人ひとりが活躍できる社会の実現を目指すこととしております。また、より具体的なイメージについても、1ページの下の方にまとめております。

続きまして2ページを御覧ください。こちらは将来像2として、「安全・安心で心ゆたかに暮らしを楽しめる社会」としております。

地域の医療福祉など、生活に不可欠な機能やサービスを相互に補完・連携し合うとともに、自然災害などのリスクに柔軟に対応することができる社会、また、豊かな自然との共生や、デジタルや先端技術などの利便性を享受しつつ、対面での他者との繋がりも大事にしながら、安全安心で心豊かに暮らしを楽しめる社会の実現を目指すこととしております。また具体的なイメージも、その下にいくつかまとめております。

そして次に、将来像3として、「力強い産業と魅力ある仕事があり、安心して働ける社会」を掲げております。

先端技術を活用した新たな成長産業が県内各地に展開するとともに、地域内の経済循環が図られている社会、食・住・遊が近接する恵まれた環境の中で、時間に縛られない柔軟な働き方が定着している。豊かな食や自然、スポーツ環境などの魅力を生かして、県内外や国外との交流が盛んに行われるなど、力強い産業と魅力ある仕事があり安心して働ける社会の実現を目指すこととしております。3ページの具体的なイメージまで含めたものが将来像でございます。

そして、これら3つの将来像の実現に向け、今後の方向性を整理したものが、4ページ以降、第3章の今後の方向性でございます。4ページを御覧ください。

今後、施策を進めていくにあたっての基本的な考え方として、宮崎の持つ独自の魅力や価値に、これからの時代に必要とされる5つの要素を掛け合わせる事が重要であると考えております。

5つのキーワードとして、1つ目は「持続可能性」です。経済と社会環境が調和することで、持続可能性を高めていくという視点です。

2つ目が、「デジタル・先端技術・イノベーション」です。デジタルなどの新技術を効果的に活用し、地域課題を克服するという視点でございます。

5ページに入りまして、3つ目が「人材力」になります。付加価値の源泉は「資本」から「人材」へと移っており、今後は人の力の結集が課題解決の鍵となると考えております。若者たちが郷土への誇りや愛着を持ち、未来を切り開く力として成長していくことが重要であるという視点です。

4つ目は「地域力」を掲げております。人口減少が続く中で、地域の営みを維持していくためには、サービスや機能などを集約するとともに、地域同士の連携や役割分担、地域内で経済を循環させていくという視点が大事であると考えております。

最後5つ目は、「きずな・つながり」になります。私たちの社会は、人との関わりの中で築き上げられてきたもので、これからも、個々の意見などを互いに認め、助け合い、補い合いながら、よりよい地域を目指すことが重要であるという視点であります。

6ページをお開きいただきたいと思います。こちらは、具体的な施策の方向性を4つの柱にまとめております。

柱の1から3までの8ページまでは、人口減少を前提とした地域づくり産業づくりの方向性を、そして最後の9ページの柱の4、こちらについては、将来の早い段階で、人口減少に歯止めをかけ、人口が安定化していくための方向性を整理しております。

まず1つ目の柱は「人口減少を前提とした安心して暮らせる地域社会の維持」としております。例えば、1つ目の二重丸のように、デジタル技術の活用による移動手手段の確保や、その下の二重丸にあります、地域機能の連携・集約により、暮らしを維持していくこと。

さらに、5つ目の二重丸の部分、災害対策としての計画的な耐震化や、老朽化対策としての公共施設等の統廃合や長寿命化の取組。また下から2つ目の二重丸にあります、ゼロカーボン・いわゆるカーボンニュートラル社会の実現に向けたエネルギーの地産地消の推進等についてまとめております。

最後、7ページの上から2つ目の二重丸には、先端技術の活用や医師の偏在是正等による医療福祉体制の充実といった方向性を記載しております。

2つ目の柱は、「くらしを支え、未来を拓く産業づくり」ということで、1つ目の二重丸にありますように、新しい技術による付加価値の高い新たなビジネスの創出やスタートアップ支援、その下の二重丸にあります、農林水産業やスポーツなど、宮崎の地域特性を生かした稼げる産業や企業を育成することを掲げております。

3つ目、4つ目の二重丸にありますように、地域内での経済循環を高めるとともに、海外市場などから外貨を獲得すること、その下の二重丸にあるデジタル化や国際化に対応した産業人材の育成・確保といった方向性をまとめております。

続きまして3つ目の柱は、「人生を豊かに過ごせる地域づくり」としております。例えば1つ目の二重丸、生きがいや健康を実感できる自然やスポーツ環境の充実や3つ目の

二重丸、人が集い様々な活動を楽しめるにぎわいの場や、居心地のよい空間づくり、さらに、その下の二重丸、誰もが文化に触れ、親しむ機会や交流を創出することなど。最後に、8ページ1番下の二重丸の部分では、ヤングケアラーや貧困・孤立といった困難を抱える人を支える地域づくりを進めるといった方向性をまとめております。

9ページは4つ目の柱、「将来の人口安定化に向けた社会づくり」としてまとめております。1つ目の二重丸の部分では、出会いから子育てまで切れ目のない支援体制づくりや女性が働きやすい環境づくり、男性の家事育児への参画拡大など。

その下の二重丸の部分にあります、若者や女性の地元定着やUターンの促進、4つ目の二重丸の、宮崎についての理解を深め郷土愛を育むふるさと教育の推進や、1番下の二重丸の部分にあります社会的・経済的な理由で、子どもたちが学習の機会をなくすことがないよう、学びのセーフティネットの充実に取り組むといった内容をまとめております。以上が、長期ビジョンにおける将来像と方向性の説明でございます。

○藤本部長

ありがとうございました。盛りだくさんで、なかなか、すべてを読みきることができませんでしたが、将来像が1から3まで。今後の方向性ということで、5つの要素と4つの方向性を整理してもらいました。資料等について何か御質問等ございませんか。

○鮫島委員

今から、いわゆるアクションプランについての議論ということなのですが、アクションプランの原案が、先ほど御説明いただいた部分なのでしょうか。

○事務局

先ほど説明した資料は、長期ビジョンを抜粋したものになります。長期ビジョンは約20年後の2040年に向けて、今申し上げましたが、将来像を3つ描き、その2040年の将来像に向けて、こういう方向でやりましょうと整理したものになります。今から人づくり部会に関するアクションプランについて意見をお出しいただきたいと考えております。

アクションプランとは、今後4年間の実行計画になりますが、まだここに、文章としてはありません。まだ、長期ビジョンまでしか作っておりませんので、これからアクションプランを策定するに当たり、御意見いただきたいという趣旨でございます。

○鮫島委員

よく分かりました。アクションプランの原案がない中での議論なのかという確認をさせていただきますところでは。

○藤本部長

ありがとうございました。その他、御質問等ございますか。では、また何かありました

ら、その都度、御質問ください。本部会は人づくり部会ですので、将来像1の「一人ひとりが生き生きと活躍できる社会」の部分を中心に皆様に御意見を伺うことになるかと考えております。残り40分ほどしか時間がございませんので、進めさせていただきます。

それぞれの委員のお立場であるとか、関連した考え方であるとか、何でも構いません。どんな角度からでも構いませんので、御意見を出していただければ幸いです。どなたからでも結構ですので、思いついたことやお考えをお聞かせいただければと思います。いかがでしょうか。

○鮫島委員

長期ビジョンですが、非常によく練られていて、全体として素晴らしいなと思ったのですが、私はいつも「宮崎大学の特色は何ですか」と聞かれる立場にいるものですから、その角度から質問しますと、「宮崎ならでは」というのは何ですか。

長期ビジョンは総合的に書かれていて、熊本でも大分でも、多分北海道でも、このとおりだと思います。

例えば「宮崎ならでは」という観点からいくと、子どもの出生率、人口減少の話に繋がりますが、全国の中で見ると宮崎県の出生率は、全国で2・3番目に高いですよ。高いということはいいことで、これを維持するために何ができるのかとか。あるいは宮崎は、三方山に囲まれており交通の便はよくないが、外に出る際、空港を使うのか、海を使うのか、SDGs的な観点でいえば、空港よりは海になるのでしょうか。

今、例を出しましたが、宮崎の観点から「何をするのですか」と問われた時、実際の行動プランとしては、大まかな、「どこでもそうですよね」というところに陥らないかなと思ひまして、県の総合政策部ですから、「実はこういうことを考えているけれども」という内容があれば、もう少しお聞かせいただければと思います。

○宮本委員

関連で、カラーの資料を1枚いただいておりますが、人に関する参考資料となっております。これについての説明はどこかで出てくるのでしょうか。

○事務局

参考資料について触れさせていただきます。本日は、この参考資料について詳しく説明するつもりはなかったのですが、委員の皆様方が、いろいろと考えていただくためのベースとなる情報として、説明させていただければと考えております。まず、表の上のグラフは、平成30年と令和3年の年齢別・男女別での他の都道府県との出入りを示したのになります。いわゆる社会増減の部分になります。

真ん中の線から上が転入で、下の方に伸びているグラフが転出になります。例えば上のグラフで言うと、20から24歳の部分が、上も下も長いと思います。

男性は1,956人入ってきて、2,679人出ているので、この年代はマイナス約700人とい

うこととなります。同じ年代で女性は1,300人入って、2,300人出ていますので、マイナス1,000人、このような計算となります。

これで平成30年と令和3年を比較していただくと、少しマイナスが減っている状況となります。

全体で見ると男性は下の方に少し解説も入っているのですが、平成30年は1,500人減っていたのが令和3年ではマイナス428人になっており、約1,000人改善しているということとなります。

女性は同じく、2,010人の減から1,018人減、同じく約1,000人改善しているということとなりますが男女を比較すると、どうしても女性の方の減り幅が大きくなっておりま

す。少子化対策を考える上で、女性がいなくには子どもが生まれませんので、この女性が大きく減っている現状をどうすれば止めることができるのか。また、県外に出ることはある程度やむを得ないとしても、どうすれば帰ってきてもらえるのか。ということが一つのテーマになるのではないかと考えております。

次に一番下の表ですが、これからも住み続けたいと思う人の割合というところで毎年アンケートを取っています。千数百人から回答をいただいている中での数ですが、大体8割以上の方は、これからも宮崎県に住みたいという回答をいただいております。また少しずつですが、年々その割合は上がっています。

ただ残念なことに、年代別で見ると、やはり若い18から29歳の方は、6割を切るぐらいにとどまっております。どうしても残りたい方というのは、ある程度の年齢以上の方ということがお分かりいただけるかと思えます。

やはり、若い方にどうすれば残っていただけるのか、先ほどの女性というキーワードや若い人という観点が必要であると考えております。裏面をご覧ください。

県内就職率の観点から見たものが、上のグラフとなります。県内の高校卒業、大学卒業新規学卒者の県内就職率を見たものです。

高い方が高校卒業生、下の低い方が大学卒業生のデータですが、高校卒業生は徐々にですが上がってきており、大体6割程度になりました。

ただ、全国的に見ると、まだまだ下から数えた方がいいぐらいのレベルです。

大学の方は、これは全国統一の数字がないので比較が難しいですが、宮崎県内の大学ないし短大を卒業した方の大体4割くらいが、県内に就職したというデータとなります。ここはどうしても、地方は低い傾向にあります。

5割以上の方が一旦県外に出られるとなると、県内大学への進学や県内企業への就職を増やす政策が必要なのではないかというところを考えていただく視点も必要であると考えております。

そのさらに下の方のデータからは視点が違いまして、県内の貧困の状況が何かわからないかということで、集めたデータとなります。

例えば、生活保護世帯に属する子どもの進学率が、高校・大学それぞれにおいて全体平

均と生活保護世帯とで乖離があることが分かりますので、ここを少し行政として公的に支援することが必要ではないかということなども考えられるかと思えます。

あと、最後のデータは、ひとり親世帯の就労形態や平均月収になります。

○藤本部長

もう 1 枚、総合計画長期ビジョン案のポイントという資料についても事務局から説明されますか。

○事務局

こちらは、先ほど説明した内容の項目を 1 枚にまとめたものになりますので、特段説明はいたしません。

○藤本部長

了解しました。盛りだくさんの内容ですので、これ 1 枚を御覧になれば、ある程度のポイントが分かるという資料になるかと思えます。

私の説明が少し悪かったかと思えますが、将来像 1 の部分だけしか意見は駄目だということではございませんので、御理解ください。その中で、できれば将来像 1 に関連するような御意見等を出していただき、アクションプラン策定の基礎となる、また参考になるような御意見をいただければという会ですので、よろしく願いいたします。

また、最後に私がまとめるとかそういうことも本日はございませんので、それぞれのお立場で、御意見を気軽に出していただければと思います。

○中村副部長

イメージとして、例えば、この方向性を実現していくために、「具体的にこういう施策を立てていきますよ」というようなアクションプランになるのでしょうか。将来像 1 という、ものすごく漠然としたものを実現するために、どのように議論していけばよいのか。もう少し、アクションプラン自体について御説明いただきたいのですが。

○事務局

アクションプランのイメージは、今後の方向性を、さらに具体的に書いていくというイメージであると思っていただければと思います。ただ、先ほどの鮫島委員の御質問にも関わりますが、すべてを満遍なく書くと、結局「全部をやります」という答えになってしまうので、これからの 4 年間ということで強弱をつけながら、どこをポイントにするかというように書き方にしたいと考えております。

また、先ほど鮫島委員からも、「宮崎ならではの」とは何なのか、という御質問がありましたが、変わらない部分が大事だと思っています。例えば歴史であれば、神話は大事だと思っていますし、スポーツをする環境、このあたりは、おそらく他の県にはないもの、ど

この県でもできるものではないと考えています。これだけのハードの部分も含めたスポーツ環境は他県と比べても差が出てくるものだろうと思います。

それから産業でいうと、やはり農林水産業をベースとした部分、もちろん農林水産業が盛んな県は他にもありますが、内容的に見れば違いが出てきますので、畜産であるとか、施設園芸であるとか、そのような強みが本県にはあると思っておりますので、それを生かす必要があると考えています。

また、本県の場合、製造業で見ても、食品関連製造業の部分のウエイトが大きいという特徴があります。そのような部分も押さえておく必要があると考えております。

○鮫島委員

引き続き、アクションプランの話になりますが、アクションとは、「具体的にどういう行動をしますか」という話ですよ。

長期ビジョンは20年先を見据えて作成されている中で、人づくりのためのアクションプランについて、どのように内容を絞り込んでいけばよいのか。もう少し具体的なことを教えていただけないでしょうか。

○事務局

机上の青い冊子が、現在の総合計画になります。その前半が、まさに今回の長期ビジョンに当たる部分であり、後半がアクションプランとなっております、それが1冊にまとまっているところです。アクションプランについては、令和元年度から4年度までの行動計画になっておりまして、これから作ろうとするものも、同じく、令和5年度から8年度までの4年間の行動計画を作りたいと考えております。

例えば先ほどの会議で、委員の皆様にご政策評価について御議論いただきましたが、あれがまさに現計画のアクションプランを評価していただいた形になります。

数値目標を立て、その目標が達成できたかどうかということについて、毎年見ているところです。

先ほど少しプログラム1のところでご意見がありました、UIJターン者を増やすという政策では、結果として数字は出てきておりますが、人づくりという部分では、まだまだ取組が足りないのではないか、子どもの教育の部分を、もっと考えていくべきでないかという御意見もありましたが、まさに、そのようなことをアクションプランに組み込むための御意見をいただければ幸いです。

○総合政策部長

先ほど担当も申しましたが、アクションプランは4年間の行動計画ということになります。それぞれのテーマで作っていくことになると思いますので、人づくり部会については、人材育成や人材確保というような内容になっていくかと思っております。

それぞれの分野で、どのような取組をしていくのかということのを体系的に整理してい

きますが、その作業は事務局でやりたいと考えております。

大きなテーマがあり、その下の項目ごとに数値目標を立て、どのような施策をやるのかを整理していく形になりますが、今日の段階では、このようなことに少しポイントを当てて欲しい、強く打ち出して欲しいなど、そのような御意見をいただきたいと存じます。そして次の段階では、アクションプランの原案をお示ししたいと考えております。今日のそれぞれお感じになっていることや、こういうふうなことをして欲しいなどの御意見をいただければありがたいと思っています。

○藤本部長

委員の皆さんいかがでしょうか。それでは加納委員。

○加納委員

残り 30 分となっておりますので、私が感じたことを少し述べさせていただきます。

女性の社会参加についての推進会議に参加している中で、いつも思っていることがあるのですが、将来の人口安定化にも関わることです。やはり今後、絶対大切なのは、労働人口を確保するためにも、女性が働くということだと思います。

まだまだ本当に、女性が持っている能力を發揮しきれていないというのが現状なので、労働人口が減る中で女性をどのように活用していくかということ、もう少し具体的に考えていきたいと思っています。

その中でやはり大事なものは、男性の家事育児への参加です。どれだけ女性と同じだけやってもらえるかということについては、以前から言われていることではありますが、推進会議で出てくるデータでも、全然そこが上がってきません。実は、男性の育児休暇取得率というのは、全国的に上がってはいるのですが、少しびっくりしたのは、例えば育児休暇を 1 日取ってもカウントされているようです。

男性が 1 日だけ育児休暇を取得してポイントが上がったといっても、全然足りない、数字だけで判断していくのではなくて、本当に男性が半分は手伝ってくれるような、例えば女性が 1 年休んだら次の 1 年は男性が休むというような、具体的なメッセージが出せるといいなと思いました。

あと、U I J の話の中で、先ほど女性の方が少ないという情報がありました。その説明の中で、やはり女性がいないと赤ちゃんが生まれないということも出ました。それを考えると出産ができる年齢の女性が宮崎にいるということがとても大事だと思います。子どもを産める女性の何歳から何歳までというところは短いので、その間に戻ってきてもらえるような方策を、具体的に考えていく必要があると思いました。

また、宮崎に「残る」「戻る」そして「移る」方を増やすという説明もありましたが、以前は「戻る」という言葉は、あまりなかったと思います。この「戻る」に、何かヒントがあるのではないかと考えています。

○藤本部長

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。それではウォーカー専門委員。

○ウォーカー専門委員

先ほど宮崎県内での就職・進学という話が出ましたが、実は私が勤務する大学の県内就職率は、昨年度8割以上でした。

ただしそれは、要因が大きく2つあります。1つはコロナウイルスの拡大で、もう1つは教育学部ができたことです。このことで宮崎県内への就職が増えたと思います。しかしながら、この流れがいつまで続くのかは気になるところです。

そのような背景を考えた際、令和元年度の時点では、コロナウイルスの影響は全く予想できなかったと思います。そこを次のアクションプランでは、どこまで考えていくのか。そこも大事になってくると思います。

○藤本部長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。それでは甲斐専門委員。

○甲斐専門委員

話が少し変わりますが、先ほど人口が減少していく中で、若い世代が増えないということでしたが、宮崎に戻ってきて出産というところは増えていくかもしれませんが、その後の子育てしやすい環境や手厚いフォローを入れていかないと進まないと思います。やはり今だけでなく、その先が見えないといけないのではないのでしょうか。

また、先ほどの資料の8ページの1番下、ヤングケアラーの問題や9ページの1番下、教育の部分が4年後どうなっているのか。どの年代に対しても、ここ押さえておかないと、次を担う若者が育たないと思っています。

あと、人に関する参考資料の中に赤字で書いてある「これからも宮崎県に住み続けたい人の割合が18から29歳で55.7%ということですが、これに関しては、県外に出られた方の実際の声を、何かしらで集める方法はないのかなと感じました。そこに何かヒントがあるような気がします。以上です。

○藤本部長

それでは、松本委員お願いします。

○松本委員

私は戻ってきた立場になるのですが、やはり、賃金のことが問題だと思っています。先日、最低賃金が上がったと思うのですが、やはり都心部と100円くらい時給にして違うということは問題であるし、同じものはやはり、同じ値段がすると思います。

あと、子供を産む病院がないということも深刻な問題だと思っています。そのあたりの対策

も必要ではないでしょうか。私が住んでいる町でも、小児科が少ないと感じます。

教育については、子どもたちが楽しく学べるような環境整備が必要です。楽器などもかなり古いものが使われていたりします。そのような視点も入れていただければと考えています。

○藤本部長

その他いかがでしょうか。中村副部長お願いします。

○中村副部長

いただいた資料の中にもコミュニティという言葉が何回か出てきますが、どのようなコミュニティをイメージされているのでしょうか。

実際に長期計画やアクションプランを策定するとしても、行政だけで全てをケアすることは難しいと思っています。できるだけ自分たちで、行政の手が届きにくいところを人と人の繋がりによってカバーすることも大事だと感じます。

また、今までのコミュニティは、割と地域の地縁・血縁を指すことが多かったのではないかと思います。興味関心に基づいたコミュニティというものがあると、意外と有効ではないかと考えます。実は私は、東日本大震災の際に福島の方に行ったことがあります。地域コミュニティが壊滅し、何も役に立たない中で、割と趣味や興味関心に基づくコミュニティの人たちが力を発揮し、助け合い、震災の中を切り抜けていったということがありました。大規模災害の時のセーフティーネットとして、今までのコミュニティの外縁にとられない新しい形のコミュニティというのが、これからどんどん出てくるといいかなと感じます。

特に若い人は、なかなか人との繋がりを持ち、がっちり固まることをあまり望まないもので、そのような、ゆるいコミュニティというのも、あってもいいかなと思います。

○ウォーカー専門委員

私は県外出身とは少し違うかもしれませんが、今宮崎に18年ぐらい住んでいます。その中で、外国人でありながら自治会の会長をさせていただくなど、珍しい体験をしていると思います。外国人にとって地域に溶け込むということは、実際には、なかなか難しいのではないかと感じています。

今は外国人がどんどん増えてきていますが、様々な意味で、宮崎県自体が、これから外国人をどう生かしていくのかは大事な視点であると感じます。今回の計画に明記するかも含め、技能実習生の問題にしても、医療を含めた経済活動全般を支える役割があり、大事なことであると考えます。

○藤本部長

ありがとうございました。宮本委員お願いします。

○宮本委員

教育について、前々から発言していますが、強く打ち出してもらいたいと思います。子どもは未来への投資ですから、5年後10年後、ビジョンが示す2040年にはもう大人になっていて、今の子どもたちが将来を作っていくわけですから、やはり子どもたちへの教育には力を入れて欲しいです。そのためには教育環境の整備と教職員のスキルアップだと思います。

教職員もやることが多く、さらに新しいものも入ってきて、本当にもう働き方改革の話も含めて、なかなか上手くいっていないのが現実だと思います。

これは、ずっと以前から水面下では問題になっていたのですが、ようやくそれが表に出てきたのかなと感じています。もちろん、民間企業や一般社会でも同じこともあるのですが、やはり教職員は、子どもを育てる職であることから、高い資質を持ってもらいたいと思います。

例えば、研修を受けるにしても、1回や2回受けて、それで変わったかという、なかなか難しいのではないかと思いますし、やはり若い時に力を付けていかないとけないと思います。やはり、高等教育の大切さも感じますし、教育行政の充実も求められると思います。そして教職についてからも、学び続ける教員を育てていくことも大事だと思います。

また、学校には人が足りていません。政策評価の中にもありました学校支援ボランティアの活用なども、もっと考えて欲しいと思います。様々な専門性を持った方が地域にはいらっしゃるの、その方々を取り込んで、学校への協力隊といいますか、地域の中で組織ができるといいのかなと思います。やはり行政だけでは、行き届かないところもたくさんあると思いますので。

コミュニティスクールの制度や視点も上手く活用しながら、県全体で子どもたちを支援し支えていくなど、教育について、もっともっと強く打ち出していきたいと考えています。

○藤本部長

ありがとうございました。鮫島委員お願いします。

○鮫島委員

この会は人づくり部会だろうと思います。人づくりは一言で言うと教育だということはおもう皆さん分かっていると思いますが、やはり宮崎は経済的には厳しい県だと思いますので、そこをどう工夫していくかということになるかだと思います。

まず宮崎は自然が豊かです。空気・海・森林・川、何もかもが素晴らしいということをやはり若いうちから、あるいは幼少期の頃から、一緒に体験できるコミュニティとして活用することです。

また、経済的に厳しい県であるということであれば、YouTubeや漫画とか、いつでも映像で見ることができるサイトがたくさんあるので、そのようなものを活用して勉強させ

てもよいのではないかと思います。そのようなシステムを作ってかなり強力でやっ
ていくことも必要だと思います。

そうすることで、中高大と上がるにしたがって、何を専門的に学びたいのか、ど
のような道に進みたいのか。その将来像が見えるような形を提供してあげることが
できると思います。さらに国際化についても、人情味があり社会的に頭のいい人
をたくさん作るために、この4年の間に何か動き始める必要があるのかなと思
います。

○藤本部長

ありがとうございました。松本委員お願いします。

○松本委員

宮崎は日本農業遺産の認定も受けているので、こんなにすばらしい土地に住んで
いるのだということを、もっと子どもたちに教えていただきたい。

○ウォーカー専門委員

宮崎県の地方自治体は、それぞれ様々なことに取り組まれていますし、協力もさ
せていただいています。自然が豊かで生活しやすいことを、もっと全面に出して
もよいと思います。

新しいことをするにしても、お金がない、組織がないなど、課題が出てくると
は思いますが、そのような中で、教育の問題については山間部に高校がないこと
も課題の1つかと考えています。一つの提案としては、国際高校をそのような地
域に誘致し、そこに県外からも集まってもらい地域で学校を支えてというこ
とも考えられるのではないのでしょうか。そのためにも、県と各自治体との連
携も大事になってくるのではないかと思います。

○藤本部長

ありがとうございました。松本委員いかがですか。

○松本委員

やはりコロナもあって、学校がますます閉鎖的になってしまっていると思
います。地域が丸ごと学校になるようなイメージで、コミュニティスクールを全
面に出して4年間やっていたらよいと考えます。

○甲斐専門委員

まちづくり協議会とか地元にあたりするのですが、そこが、まちを一緒に
作ろうというよりもイベント会社みたいな感じで、イベントの企画だけに特
化してしまったりすることが多いと思います。

そこに、教育に関する様々なエッセンスを含んでいただけるようなものを
組み入れて

いければ、大きな政策の中で、一つ一つが上手くいくのではないかと考えたりしています。

○藤本部長

ありがとうございました。時間もありますが、いかがでしょうか。

○米良委員

最後に発言させていただきます。この会でも本当に勉強させていただいております。人づくりというものは、やればやるほど離れていったり、ほったらかしにしても文句を言われたり、答えのないエンドレスで難しい問題だと思っています。

うちの社員のことを申し上げますと、先月末に会社でちょっとしたイベントをしました。参加者には高卒・大卒、今年入った新卒社員もいます。今日、その参加者の感想文を読みましたが。ただただ驚いています。「はじめての経験で」などと、そのようなことがずっと書いてありました。

大学の教育はどうか、6・3・3制がどうか、などということではないのではないかと思います。私は昭和20年生まれです。まだまだいろいろなことが残っている時代でして、学校はいかにさぼるところかという感覚がありました。

私は大淀高校の最後の普通科、南高校の0期生といったところでしたが、いかに近くの天神山に先生よりも早く駆け込むかを考えていました。それに比べて、今の子どもたちは本当に真面目であると思います。様々な事件等もメディアで報道されたりしていますが、ほんの一握りの話であると捉えています。

私たちの時代は、山に入って椎の実を食べたりして大きくなってきましたが、今の子どもは18歳や22歳で就職し、仕事に就いたらいきなり60歳や自分の親世代が上司になり、敬語も使わなければなりません。

家の中では、どのような言葉遣いか分かりませんが、様々な話を聞きます。私は敬語の教育は学校ではなく、家庭のしつけだと思っています。それを全部学校の先生に押しつけてしまっただけです。そのようなことが多いので、PTAとしても考えながら、人づくりという問題についても対処しなければならぬと考えています。

今、小学生でも中学生でもインターンシップという方法がありますが、うちの会社では中学生に、こちらからの出前授業や工場見学に来ていただく取組をしています。工場見学だけでも、年間3,600人程に来ていただいております。

そこには、実習をしてもらうことが電気の素晴らしさを知ってもらうのに、一番手っ取り早いという考えもあります。さらに、電気は素晴らしいものであるが、怖いものでもあります。この両面を理解してもらう必要があります。しかしながら、我々がその両面を教えようとする子どもたちは引いてしまいます。

そのような中で先ほど、ゆるいコミュニティという言葉聞いて、よい言葉だなと感じました。小・中・高・大学と子どもたちは段階を踏みますが、どこかで社会学というものを入れ込んでいただければ、もっと力強いお子さんができるのではないかと考えている

ところでは。

生まれてからの人づくりという場面の中で、そのような体験をしながら、敬語の使い方を学んだり安全性等について理解したり、さらには、「ここからはしてはいけないよ」というしつけも大事だと思います。それから服装の乱れもやはり、私どものような職場では怪我に繋がります。そのようなことも含めて、ゆるいコミュニティというものがあってよいのではないかと考えています。本来の言葉の意味とは違うかもしれませんが、そのようなことを考えていました。以上です。

○藤本部長

ありがとうございました。今から議論が盛り上がるころかもしれませんが、時間がまわりましたので、本日の人づくり部会については、これで終了させていただきます。

この後の連絡等については、事務局の方にお返しします。

○事務局

ありがとうございました。本日いただいた様々な御意見を、私たちも全て書き込むというのは難しいかもしれませんが、ポイントのところをうまく酌み取りながら、文章化し、またそれを皆様に御覧いただき、再度、御意見をいただくような作業になってくると考えております。なお、次の専門部会は、来年1月下旬頃を予定しております。

基本的には形ができたものを元に御議論いただくということになりますが、事前に郵送等で見ていただき、御意見も収集しながら、来年1月に再度お集まりいただくことを考えております。

なお、具体的な日時等につきましては、時期が近づいてから調整させていただきたいと思っております。

最後になりますが、本日お配りしている現総合計画のブルーの冊子等については、お持ち帰りいただいても結構ですが、机の上に置いていただいたままでも構いません。

それでは以上で、第3回の人づくり部会を閉会いたします。本日はありがとうございました。